



関 まつり 紀行

其の十七

お十七夜
じゅうひちや

関に伝わる「まつり」を紹介します

うちわを手にした浴衣姿の人々にぎわう、夏の夜の伝統行事「お十七夜」。毎年ユニークな野菜の出し物が登場し、市民らの目を楽しませてくれます。



毎年8月17日に大門町商店街で行われる「お十七夜」は、新長谷寺（吉田観音）の観音供養にちなんだ行事です。古い言い伝えによると、江戸時代にこの地で流行病が発生し、多くの人が病死したので、住人たちが自分の家の軒先に野菜や穀物をお供えして観音様に平癒を祈願したところ病気が治まりました。ちょうどその日が観音様の祭日の前晚（お逮夜）にあたることから、お十七夜の行事が始まったといわれています。それが時代とともに現在の出し物コンクールへと発展してきました。

お十七夜の日
は、大門町1丁目
から3丁目にかけて、
店舗や家の軒
先の一部を開放
し、野菜を素材と
した出し物が約20



点飾られます。これらの出し物にはそれぞれテーマがあり、時事問題や世相を風刺したものなどが多く取り上げられます。また、それぞれ賞が与えられ、出来栄を期待して毎年多くの人でにぎわいます。この日は夜店が並び、浴衣姿の子どもも多く見られ、夏の夜の市民の楽しみの一つになります。